



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 5

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 5. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1953, 5

ISSUE DATE:

1953-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186880>

RIGHT:

# 京都大学瀬戸湾実験所振興会 水族館月報

No. 5

1953. 1月 (2月1日)

酷い寒さにもめげずに、月の後半まで客足が続いたため、昨年9月の入場者を少し上回る成績を得た。しかし、昨年末の借越しの始末があるので、経理は楽でなく、やっと約7万円を返済した。水温の低下が甚だしく、気温の降下した中旬には、10度台を示すに至った。そのため、魚類の斃死するものが多く、しかも激しい季節風のため、換水も乏しくて、その補充に苦勞している。しかし、館員の努力により、とにかく、總ての水槽は常に満たしている。

次に1月の出来事として、アカウミガメの京都行を記しておく。彼女は京都市観業館で進行している大和プロのアナタハン映画撮影に加わるため、21日17時半、お迎えの小型トラックが京都から着き、スズ号水槽から車上の木箱に納まり、ムシロで包まれ、湯タンボ4個で温められて19時出発した。翌朝10時無事に到着した由、撮影終了後は京都市動物園に寄贈される筈。同時に送り出した魚類は、輸送水槽の不備のため残念にも途中で死んでしまった。

水族館南海岸西側を護る防波堤の工事バ、いよいよ上司から始められた。

◎ 1月入場者数

水族館発売切符数

大人 3609  
小人 309  
団体 1610 } 計 5,528

明光バス発売切符数

大人 7455  
小人 183 } 計 7638

13,166

無料入場者 ----- 25

◎ 観覧券売上金 ----- 253,670,00

雑収入 ----- 110,00

計 253,780,00

◎ 支 出

12月より繰越 ----- 5,956,00

12月分入場税 --- 5,116,00 - 852,00 (番所山) = 4,264,00

災害時予備積立金 ----- 1,692,00

差 引 ----- 0

人件費 (給料, 年末賞与退給金, 所得税) 54,712,00

光熱費 (電力代, 炭代) 12,446,00

消耗品 (切符印刷代, 油代, 他) 8,315,00

備品費 (油サシ, 上合) 210,00

修理費 (ペイント代) 2,075,00

材料費 (食料及お餌代) 11,447,00

厚生費 (制服代) 230,00

積立金 (退職資金, ベースアップ資金, 賞与資金, 厚生資金, 災害時予備積立金) 27,760,00

旅 費 (田辺 - 白浜) 180,00

通信運搬費 (ドラム缶田辺運送代) 300,00

雑 費 599,00

契約金 42,070,00

借入金返済 74,686,00

計 235,030,00

2月に繰越 18,750,00

香所山に対する契約金は

$(253,670.00 - 1,250.00) \times \frac{1}{6}$  として算出されました。

1月31日現在の借入は

現金借入	-----	90,000.00	
未拂代金	-----	19,000.00	(顕微鏡と真撮影 装置代金の一部)
計		109,000.00	

積立金類は下記の如く保管されています。

退職資金 (各人名義にて紀陽銀行に予金 印鑑は水族館印、予金帳は水族館に保管、3名に対し  
夫々月額300円)

賞与資金 (現在高)	-----	12,000.00
ベース・アツプ資金 (現在高)	-----	12,000.00
学生資金 (現在高)	-----	2,110.00
災害時予備積立金 (現在高)	-----	30,266.50

#### ◎ 災害時予備積立金に就いて

この積立金は、天災その他の災害があつて、収入のない折に館員に支拂う給料にあてるもので、他には絶対に使用しない性質のもので、ところが現実には、例へば12月のような赤字月には、この積立金を一時借用と言う事になるのですが、借用額は必ず返済しています。1月の積立金額が多いのは、12月に借用した。この積立金の返済が含まれているからです。

大学の共済組合に加入が許されない3名の館員のために、どこかに便宜させて貰える組合がないのかと、白浜、田辺を探しましたが駄目でした。切実なる問題として、医療、冠婚葬祭に金が借りたい時、出来るだけ安い利息で目的を達する事が出来ないわけです。館員はかなりの金額を出しても組合組織に

加入して、生活に安全感と便利を得たいと希望しているのに、それが出来ぬ淋しい状態なのです。そこで、以上の目的に沿うため、ある金額以下を大体、共済組合乙種組合員に対する規定によりこの積立金から貸出す事を考えてみました。しかし、あくまでこの積立金の性質を重視して、1年以内の短期決済以外は受付けぬ事にします。このような約束で、現在25,000,00を貸出していますがすべて7月末迄には給料からの天引きにより返済されます。

## ② 入場税

公絵入場券の使用枚数と、こちらから申告する税額とがどのやうに調整されるか？ この問題が1月分入場税に就いて尚も尚も問題になります。

## ③ 1月の気象

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(23)	7	8	8
気温	8.0 — 11.6 9.6	5.2 — 14.8 8.5	6.4 — 10.9 8.7
水温	13.8 — 16.2 15.0	11.7 — 16.0 13.7	12.3 — 14.5 13.5

但し、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{気温は南水槽室} \\ \text{水温はNo.22水槽} \end{array} \right.$  で10時に測定

恒温装置を施したNo.28の隣のNo.27水槽の水  
温は、大体上記より3℃高い。

## ④ 1月の奥

アオリイカは9月に死んでしまって、現在3匹のコウイカが

残っているのみ。

シロサメが14日に死んで、コバンサメが宿ないになってしまった。宿を離れたコバンサメが水槽中の大型臭に片っぴりから附着しては、その皮膚を傷つけ、これを殺してゆく。昨年9月20日からえ気にしていたアオブダイと遂に31日コバンサメに殺されてしまった。誠にコバンサメは水槽では害臭である。業を焚やして生残った2匹のコバンサメはNo. 9水槽に隔離した。

ニシキエビ、エビスタイが現在人気を得ている。

次に細かい記録を書き残すと：——

- No. 26 ~ No. 28水槽では2月1日現在なおアカラゲのエファイラが発生している。
- チョウセンバカマ 26日採集 — 31日死亡。
- アヤマカサゴ(?) 20日採集。漢夫がオキノカンガゼが獲れたと言うので、どんなウニかと取寄せたら、この臭であった。
- アリモウミウシ 19日に南磯で採集したものを、小さな容器にアオモブサと共に入れているが、今なおえ気である。これがうまく行けば、小さな容器を10ヶ位窓辺に並べて、微小動物の展示をしてみたい。

— 田村 —